

2020年のテレビとインターネットの動き

倉又 俊夫 ●株式会社NHKグローバルメディアサービス デジタルセンター

コロナ禍はテレビ各局に深刻な影響を与えたが、巣ごもり需要の喚起により映像配信が好調である。デバイスを選ばない映像コミュニケーション手段として、インターネットはさらに確固たる地位を築いていく。

新型コロナウイルスによる未曾有の猛威に翻弄された1年、それが2020年だった。世界の感染者は8567万2034人、死者は185万3334人に及んでいる（ジョンズ・ホプキンス大学調べ、NHKニュースより、2021年1月5日15時時点）。テレビをはじめ各メディアは、世界中のコロナ禍の報道を連日行ったが、感染拡大の恐れがあるというところで、取材の制約、制作の制限などさまざまな影響を受け、通常の番組制作は困難を極めた。

また、この期間、感染防止のために、ドラマや情報番組なども大きな影響を受けた。世界中で新型コロナウイルスの感染者が急増し、死者も増え続ける中、2020年3月24日には、2020年に開催されるはずだった東京オリンピック・パラリンピックの2021年への延期が決定された。

■大河ドラマ、朝ドラ制作中断

こうした事態を受け、NHKは2020年4月1日に大河ドラマ「麒麟がくる」と連続テレビ小説「エール」の収録を見合わせた。一方、政府は4月7日には初めてとなる緊急事態宣言を発出する。それを受けて、各局も対応に追われた。大河ドラマ「麒麟がくる」は、6月7日の放送後、休止期間に入り、連続テレビ小説「エール」は、6月22～26日の第13週で新作の放送がいったん休止に

なった。放送再開は「麒麟がくる」が8月30日から、「エール」が9月14日からとなり、放送日程が大きくずれ込んだ。

民放各局も、緊急事態宣言に伴って、ドラマの新作放送が軒並み止まり、当初4月期での放送が予定されていたTBS系の「半沢直樹」や「MIU404」などは7月からの放送に変更された。また、放送回数が減らされるものもあった。

ドラマ以外でも、報道番組や情報番組においては、生放送のスタジオ内でのソーシャルディスタンスを確保するために、出演者数を減らすことやリモート出演にすることが常態化した。画面にはZoomやSkypeなどのロゴとともにスタジオ以外から画面越しに番組に参加するMCやコメントーターの姿が当たり前の風景となった。執筆している現在（2020年12月中旬）でもこの状況が続いている。

■巣ごもり需要でNetflix好調、韓流ドラマブーム

2020年4月7日に発出された緊急事態宣言の対象地区は、当初は7都府県だったが同月16日には全国となり、また期間も当初5月6日までだったものが5月31日にまで延長された。これにより、不要不急の外出は避けることが求められ、人々は

これまで以上に多くの時間を家の中で過ごすことになった。

こうした「巣ごもり需要」を最も獲得したと言われるのが、Netflixなどのサブスクリプション動画配信（SVOD）サービスである。Netflixは、9月に実施した説明会で、日本での会員数が500万人を超えたことを発表した。2019年の同時期には300万人だったので、実に1年で200万の会員を増やしたことになる。この間、特に人気となったのは、「愛の不時着」「梨泰院クラス」などの韓流ドラマであり、これにより日本で「第4次韓ドラブーム」が起こったとも言われた。

■ライブエンタメの危機、配信に活路

ライブや演劇などの多くのライブエンターテインメントも新型コロナウイルスの直撃を受けた。一部のライブハウスなどが感染クラスターの現場と報道され、ライブや演劇などは中止や延期を余儀なくされた。そうしたなか、ライブの配信に活路を見出す動きが出てきた。

2020年4月18日（米国時間）に行われた「One World: Together At Home」は、慈善団体Global Citizenと世界保健機関（WHO）が共催したイベントで、レディー・ガガが発起人となり、ポール・マッカートニー、ローリング・ストーンズ、スティービー・ワンダー、ビリー・アイリッシュなど、世界中から100組以上のアーティストが自宅などから参加した。メインのパートは米国3大ネットワークでも放送され、日本ではフジテレビが放送した。ライブ全編はYouTube、Facebook、Twitter、Amazon Prime Videoなどで幅広く配信された。

また、6月14日にはK-POPグループのBTSがオンラインライブコンサート「BANG BANG CON The Live」を開催した。107の地域で同時接続者75万人以上が視聴したといわれ「最多視聴者が

見たライブストリーミング音楽コンサート」としてギネス世界記録にも認定されたという。このほかにも、多くのアーティストがファンサービスとして無料でライブの配信を行った。

当初は、中止になったライブを会場から急遽無料のライブ配信にするケースが多かったが、6月25日に実施されたサザンオールスターズによる横浜アリーナからの無観客リモートライブ『サザンオールスターズ 特別ライブ 2020「Keep Smilin' ～皆さん、ありがとうございます!!～』は、ABEMAやLINE LIVE、GYAO!など8つの動画配信サービスを通じて有料配信された。3600円のチケット購入者は約18万人、総視聴者数は推定約50万人だったという。

これ以降、興行としての有料ライブ配信は少しずつ広がり、Official髭男dism、星野源、King Gnu、サカナクションなど人気アーティストによる有料ライブが行われた。前述のサザンオールスターズは、恒例の年越しライブを無観客で開催、『サザンオールスターズ ほぼほぼ年越しライブ 2020「Keep Smilin' ～皆さん、お疲れ様でした!! 嵐を呼ぶマンピー!!～』と題し、各配信サービスにてチケット料金4500円で配信を実施した。

有料配信プラットフォームについても、前述のサザンオールスターズの配信も行った「PIA LIVE STREAM」（ぴあ）をはじめ、「Streaming+」（イープラス）、LINE LIVE-VIEWING」（LINE）、「MUSIC/SLASH」（SPOON）など複数が立ち上がった。

人気アーティストの米津玄師は、人気のオンラインゲーム「フォートナイト」内でライブの配信を行ったのがユニークだった。

■NHKプラス、4月から本格スタート

「NHKプラス」は、NHKの総合テレビやEテレの番組をテレビ放送と同時にインターネットで配

信するサービスだ。放送が終了した番組を1週間限定で視聴できる見逃し番組配信も実施している。2020年3月1日に試験運用を始め、4月1日に本格スタートした。3月は午前7時から午前0時までの配信だったが、4月からは1時間延びて午前6時から午前0時までとなった。

NHKプラスは、民間の映像系配信サービスとは異なり、公共放送NHKのデジタルサービスということで、対象者は受信料支払者である。そのため、登録方法がやや複雑だ。最初にウェブ上で申し込みをしたのち、自宅に届くハガキに書かれた確認コードを入力する。期限内に確認コードの入力がないと、同時配信の画面上にメッセージが表示され、見逃し番組は視聴できなくなる。

NHKは、9月末に、利用登録は9月26日時点で累計100万847件に達したと発表した。番組ごとのアクセス数などは発表されていないが、コロナ禍のおり、ニュース番組が多く見られ、また、通常放送が再開すると朝ドラ「エール」や大河ドラマ「麒麟がくる」が多く視聴されたという。各SVODサービスが巣ごもり需要を捉えて会員数を順調に伸ばしたなか、NHKプラスにはまだまだ会員数を増加させる伸びしろが十分にあると言えるのではないか。

■TVer、新体制へ移行

民放の公式テレビポータル「TVer（ティーバー）」は、2020年7月に、これまでのサービス運営会社プレゼントキャストに民放5社が増資し、社名も新たに「株式会社TVer」となった。これにより、より攻めの運営を目指すとし、「パーソナルタイムシフト」というコンセプトを掲げ、見逃し視聴だけにとどまらず、同時配信や追っかけ再生、レコメンドを視野に入れた、「時間や場所、デバイスを選ばないパーソナライズされた良質な視聴体験」を提供するという。

2020年10月末に発表された2020年7～9月期のユーザー状況によると、7月に月間動画再生数が初めて1億を超え、過去最高の1億2065万回となり、9月にはこれまでで最高の1350万MAUとなるなど、順調に推移しているという。資料1-1-1に、7～9月期の全配信番組の動画再生数をもとにした「動画再生数ランキングトップ10」をまとめた。

■TELASA開始、KDDIとテレビ朝日の協業

2020年4月7日、KDDIとテレビ朝日が共同出資するTELASAが運営する新たな動画プラットフォーム「TELASA（テラサ）」がスタートした。月額562円で、テレビで見逃した作品から映画やオリジナルコンテンツまで豊富なラインナップが見放題だという。TELASAは、もともとKDDIが運営していた「ビデオパス」サービスを刷新し、テレビ朝日由来のコンテンツを大幅に増やしたものだ。たとえば、「相棒」シリーズは、2002年に放送されたシーズン1から最新のシーズン19まで視聴でき、またスピンオフも含む映画版6本も並ぶ。バラエティやアニメも充実している。これで、KDDI+テレビ朝日の「TELASA」、日本テレビの「Hulu」、TBSテレビ+テレビ東京+WOWOWの「Paravi」、フジテレビの「FOD」と、それぞれのテレビ局系列に有料動画配信が揃ったことになる。

■放送各社、コロナ禍で業績悪化

コロナ禍を受け、放送各社の業績は軒並み悪化した。2020年11月に発表されたキー局の中間決算によると、民放5社すべてで売上が大幅にダウンし、特にスポットCMが下がったことが響いたという。スポットCMの下げ率が大きい順に並べると、次のようになる（カッコ内は各社の中

順位	番組	再生数
1	TBS テレビ「私の家政夫ナギサさん」(10)	1673万
2	TBS テレビ「MIU404」(11)	1575万
3	フジテレビ「アンサング・シンデレラ 病院薬剤師の処方箋」(11)	1172万
4	TBS テレビ「半沢直樹(新シリーズ)」(10)	914万
5	日本テレビ「私たちはどうかしている」(8)	855万
6	TBS テレビ「逃げるは恥だが役に立つムズキュン! 特別編」(11) *1	836万
7	日本テレビ「親バカ青春白書」(7)	804万
8	日本テレビ「未満警察 ミッドナイトランナー」(10)	691万
9	読売テレビ「ギルティ〜この恋は罪ですか?〜」(8)	591万
10	TBS テレビ「半沢直樹(新シリーズ) ダイジェスト&次回予告」(8)	538万

*1 2020年6月以前に放送した作品。

*計測期間：2020年7月1日～9月30日、TVer 番組動画再生数（株式会社ビデオリサーチ調べ）。

*自社キャッチアップサービスと他社プラットフォームなどを除く。

*番組ごとのエピソード数、エピソードごとの配信期間は異なる。

*（）内は期間内の配信エピソード数。

出典：TVer プレスリリース、2020年10月30日、<https://tver.jp/info/notice/3084.html>

間決算書によるスポットCM収入金額)。TBS テレビ 38.2%減 (280.2億円)、日本テレビ 31.7%減 (396.3億円)、フジテレビ 30.6%減 (304.5億円)、テレビ朝日 29.8%減 (305.0億円)、テレビ東京 27.7%減 (91.2億円)。

一方、NHKの中間決算によると、事業収入は受信料の還元策や新型コロナウイルス感染拡大の影響による受信料の減収などにより、前年度中間期比103億円減の3653億円となった（令和2年NHK中間決算概要より）。

■日テレ系ライブ配信、3か月実験

日本テレビ放送網・読売テレビ放送・中京テレビ放送の3社は、共同の取り組みとして、2020年10月から12月までの3か月間、実験的に、プライムタイムを中心にTVerにて合計36番組の無料ライブ配信を実施した。サービス名称は「日テレ系ライブ配信」。スマホやPCで人気番組の数々を地上波と同時にリアルタイムで視聴することが可能になった。「テレビ番組の新しい楽しみ方を提供するため」のトライアルだったとしている。

日テレ系ライブ配信は、2020年1月20～24日に行われた、一部の報道番組を対象とした、在京民放5社による放送の同時配信サービスに関する技術実証実験以来となる、民放での同時配信の試みとなった。ライブ配信の具体的な視聴数や傾向、今後の動きについては、現時点では何も発表されていないが、日本テレビ以外の各社も、ゴールデンタイム帯の同時配信について実施の検討に入っているという。

日テレ系無料ライブ配信を実施した番組は、資料1-1-2のとおり。

■文化庁、著作権処理規定を緩和か

NHKが2020年4月に本格的に開始し、10月からは日本テレビ系列で一部行ってきた同時配信だが、10月に入って文化庁は、同時配信時の著作権について、放送と同等に扱う方針を示し、12月には報告書を公表した¹。放送と配信では、規定が異なるため権利処理が煩雑になっており、各社に広がらない要因の1つになっていた。同庁は、今後具体的な制度設計をまとめ、2021年の通常

資料 1-1-2 日テレ系ライブ配信番組

▼月曜よる
7時 有吉ゼミ 9時 人生が変わる1分間の深イイ話 10時 シャベくり007 11時 news zero 11時59分 月曜から夜ふかし
▼火曜よる
7時 火曜サプライズ 7時56分 踊る!さんま御殿!! 9時 ザ!世界仰天ニュース 10時 幸せ!ボンビーガール 11時 news zero 11時59分 ウチのガヤがすみません!
▼水曜よる
7時 有吉の壁 7時56分 1億人の大質問!!笑ってコラえて! 9時 今夜くらべてみました 10時 水曜ドラマ「#リモラブ〜普通の恋は邪道〜」 11時 news zero 11時59分 それって!? 実際どうなの課

▼木曜よる
7時 THE 突破ファイル 7時56分 ぐるぐるナインティナイン 9時 秘密のケンミンSHOW 極 10時 ダウンタウンDX 11時 news zero 11時59分 「任意同行」願えますか?
▼金曜よる
7時56分 沸騰ワード10 11時 アナザースカイII 11時30分 news zero
▼土曜よる
7時 I LOVE みんなのどうぶつ園 7時56分 世界一受けたい授業 9時 嵐にしやがれ 10時 土曜ドラマ「35歳の少女」 11時 マツコ会議 11時30分 有吉反省会
▼日曜よる
7時 ザ!鉄腕!DASH! 7時58分 世界の果てまでイッテQ! 9時 行列のできる法律相談所 10時30分 日曜ドラマ「極主夫道」

出典：日本テレビ公式サイト

国会への著作権法改正案提出を目指すという。これが正式にまると、キー局を中心とした本格的な同時配信時代がようやく訪れる可能性が出てくる。

■KDDI、民放4社と5Gプラン

KDDIは、「TELASA」「Paravi」「FODプレミアム」がセットになった新料金プラン「データMAX 5G テレビパック」の提供を2020年10月2日から開始した。これにより、データ容量の上限なしに各局のコンテンツを視聴することができる。「家族割プラス」や「auスマートバリュー」などの各種割引をすべて適用した場合、月額額は4460円になるという。ただ、ネット中立性²について議論が出尽くしているわけではない中、一部の動画サービスだけが優遇されている点が気になるとの声もある。

■テレビでのネット動画視聴が増える

新型コロナウイルスの影響で、ステイホームの時間が長くなったが、ネット動画の視聴についても、そうした状況を反映したデータが出てきている。これまでは、ネット動画といえばスマホで視聴するのが一般的だったが、コロナ禍で自宅にいたことが多くなると、家庭にあるテレビ受像機でネット動画を視聴する傾向が目立つようだ。サイバー・コミュニケーションズ (CCI) が行った調査では、テレビ受像機にネットを結線していると答えた人は50%を超えているという (CCI BROADCASTING FORUM 2020にて発表)。

また、TVerによると、2019年4月から開始した一部のテレビ受像機での視聴は、2020年9月期の再生数の比率で見ると、スマートデバイス (スマホ/タブレット) が73%、PCが14%、テレビが13%と、PCと同程度まで成長しているという。

■米国ではDisney+を追う映像配信サービスが続々と

2020年は、コロナ禍による大きな影響があるにもかかわらず、米国では新しいSVODサービスが続々と始まった。

まず、AT&T傘下のワーナーメディアが5月27日から始めたHBO Maxでは、月額15ドルで「ゲーム・オブ・スローンズ」などのHBO作品やワーナー・ブラザーズ・エンターテインメントの映画などが見られる。立ち上げに際しては、往年のコメディ「フレンズ」のメンバーが揃って特番を配信するなど注目を集めた。12月末に公開された新作映画「ワンダーウーマン1984」は、米国では劇場公開と同時にHBO Maxで1か月間配信が行われた。12月の発表によると、2021年に公開される「デューン」「マトリックス4」などすべてのワーナー・ブラザーズの映画も、劇場公開とHBO Max配信を同時に行うという。12月時点で直接HBO Maxに加入した利用者は1260万人となっている。

7月15日には、ケーブルテレビ会社のコムキャストが傘下のNBCのサービスとして「Peacock」を開始した。長年NBCのロゴであるクジャクからのネーミングだ。作品としては、NBCの「30 Rock」や「サタデー・ナイト・ライブ」のほか、ニュースやスポーツ番組なども並ぶ。月額は一部広告付きが4.99ドル、広告なしのプレミアムが9.99ドルで、このほか、視聴できるコンテンツに制限のある無料広告モデルもある。10月時点での会員数は2200万人となっている。

2021年初頭には、バイアコムCBSが所有するネット動画配信サービス「CBS All Access」が、改組されてCBS傘下の映画ブランドを冠した「Paramount+」へと生まれ変わる予定だ。さらに2021年1月には、科学系ドキュメンタリーに定評のあるディスカバリーチャンネルによる「Discovery+」が始まる。

対する「Disney+」は、ウォルト・ディズニーが2020年12月初旬に開催した投資家向けの発表会で、会員数が8680万人になったとし、あわせて、2022年までに、10本の「スター・ウォーズ」シリーズ、10本のマーベル作品などを公開することも発表し、さらなる躍進を印象付けた。

一方、スマホ向け動画に特化した「Quibi」は、鳴り物入りでスタートし17億5000万ドル（約1800億円）という巨額を投入したにもかかわらず、ビジネスとしての行き詰まりから、わずか8か月で、2020年内にサービスを終了した。スマホに特化した短尺動画を有料（広告付き4.99ドル、広告なし7.99ドル）で提供するのは、外出が控えられた中で利用者を獲得することが難しかった。

コロナ禍でテレビ業界も多大な影響を受けた2020年だったが、同時配信がNHKでスタートし、また日本テレビでも試験的に始まるなど、テレビの進化は確実に進んでいるといえる。日常生活が一変し、在宅時間が長くなったことで、映像コミュニケーション手段としてのインターネットは、ますます確固たる地位をつかんでいくと思われる。

1. 「放送番組のインターネット同時配信等に係る権利処理の円滑化に関する制度改正等について（報告書）」、

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/chosakuken/hosobangumi_working_team/pdf/92687301_01.pdf

2. ネット中立性とは、本来インターネットを通過するコンテンツは平等に扱われるべきという概念。一部のネットワーク事業者

が特定のコンテンツやアプリケーションを優先的に扱うことへの懸念も議論の1つ。



1996, 1997, 1998, 1999, 2000...

[インターネット白書ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2021年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<https://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

✉ iwp-info@impress.co.jp